

# 放流効果調査事業（マコガレイ）

村松里美・鈴木亮・吉田雅範

## 目 的

第7次栽培漁業基本計画の技術開発対象種となっているマコガレイについて、放流技術の開発に取り組む。

## 材料と方法

陸奥湾系群の放流効果を調べるため、野辺地漁港に人工採苗した種苗を放流し、野辺地町漁協に水揚げされたマコガレイについて、体色異常や外部標識等の有無を確認した。

## 結果と考察

### 1. 放流効果

平成28年12月9日及び20日に野辺地町漁協に水揚げされたマコガレイ3,260尾の体色異常及び外部標識を確認したところ72尾が黒化魚であった。調査日に水揚げされた全量へ引き伸ばした後の体色異常割合は1.91%であった（表1）。

表1. 野辺地町漁協でのマコガレイの放流効果

月 日	調査場所	測定尾数 (尾)	体色異常 (尾)	割合* (%)	全長(cm)		
					平均	最小	最大
H28.12.9	野辺地漁協	3,042	71	1.98	30	23	43
H28.12.20	野辺地漁協	218	1	0.55	29	19	41
計		3,260	72	1.91			

\* 調査日に水揚げされた全量へ引き伸ばした後の体色異常割合

しかし、平成21年度から種苗放流を実施していない三沢市漁協で、平成29年2月14日に同様の調査を行ったところ、1.12%の体色異常魚が出現した（表2）。これにより、天然魚にも高い割合で体色異常が発生することが確認され、体色異常が放流魚の形質として使用できないことが分かったため、次年度は外部標識を付して放流する予定である。

表2. 三沢市漁協でのマコガレイの放流効果

月 日	調査場所	測定尾数 (尾)	体色異常 (尾)	割合 (%)
H29.2.14	三沢市漁協	712	8	1.12

### 2. 種苗放流

マコガレイの稚魚を、野辺地漁港に2回に分けて放流した。平成28年4月22日に平均全長16mmの稚魚を1万4千尾、平成28年10月12日に平均全長63mmの稚魚を2千尾放流した（表3）。野辺地地先には平成24年度から種苗を放流しており<sup>1) 2) 3) 4)</sup>、年間の放流尾数は4,500尾～17,850尾であった（表4）。

表 3. 平成 28 年度のマコガレイの放流結果

年月日	平均全長 (mm)	尾 数 (尾)	うち 標識尾数	標識種類
H28.4.22	16	14,000	なし	-
H28.10.12	63	2,000	なし	-
合 計		16,000		

表 4. これまでのマコガレイの放流結果

年度	放流月日	平均全長 (mm)	放流尾数 (尾)	うち 標識尾数	標識種類	体色異常 出現率	形態異常 出現率
H24	5/26～9/26	35.5～93.0	17,850	700	アンカー	11.1%	-
H25	5/29～10/18	49.0～126.7	12,000	1,315	アンカー・チューブ・ダート	14.2%	-
H26	10/19～10/31	94.6～120.4	4,500	3,600	アンカー・ダート	13.3%	6.7%
H27	8/9～8/18	70.0～80.0	6,500	-	なし	7.5%	-
H28	4/22～10/12	16～63	16,000	-	なし	-	-

## 文 献

- 1) 高橋進吾・鈴木亮・菊谷尚久・尾鷲政幸（2013）栽培漁業技術開発事業（マコガレイ），青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告，平成 24 年度，443-447.
- 2) 高橋進吾・鈴木亮・菊谷尚久（2014）栽培漁業技術開発事業（マコガレイ），青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告，平成 25 年度，406-410.
- 3) 高橋進吾・鈴木亮・菊谷尚久（2015）栽培漁業技術開発事業（マコガレイ），青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告，平成 26 年度，434-438.
- 4) 高橋進吾・鈴木亮（2016）栽培漁業技術開発事業（マコガレイ），青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告，平成 27 年度，481-484.